はじめに

Symposium Introduction

筑波大数理 [1],京大院工 [2],甲南大理工 [3],長岡高専 [4] ○櫻井 岳暁 [1], 野瀬 嘉太郎 [2], 池田 茂 [3], 荒木 秀明 [4]
Univ.Tsukuba[1], Kyoto Univ.[2] Konan Univ.[3] NIT, Nagaoka College [4] °T.Sakurai[1], Y.Nose[2], S.Ikeda[3], H.Araki[4]
E-mail: sakurai@bk.tsukuba.ac.jp

近年、多元化合物は新奇物性の発現、エネルギー研究との親和性、計算機の高性能化による理論研究との融合により注目を集めている。その応用範囲は、薄膜太陽電池、透明導電膜、熱電発電、光電極（光触媒）、スピントロニクスなど多様な分野に広がり、産業との接点も極めて広い。一方、多元材料であるゆえ相制御、欠陥形成の制御などが難しく、また、材料選択指針が多岐に広がり選択が難しい。材料横断的に多元材料の理解を進めることが、効率的に研究を進める鍵となる。

本シンポジウムでは、多元化合物研究の多様な分野に焦点を当て、分野横断的に俯瞰できる内容のシンポジウムを開催する。第一人者の先生方の講演・質疑応答を通じ、多元材料研究における課題をあぶり出し、どのような開発が今後必要になるかを、聴講者が包括的に理解し、ヒントが得られる機会としたい。

© 2019年 応用物理学会